

きょうの紙面

- 避難区域などで復興牧場 4
- 日東紡郡山に総合研究所 9
- 応援警察官 浜通りに重点 26

県産農産物 販促強化へ 2



県は、原発事故の影響で失った県産農畜産物の販路回復・開拓に向け、首都圏で常時販売される仕組みづくりなどに乗り出す。内堀雅雄知事が会見で意欲。

川内で小中一貫教育へ 3

川内村は、数年後をめどに小中一貫教育の導入を目指す方針を固めた。今年から学校の運営方法や教育内容について本格的な検討に入る。

郡女大付が初戦突破 17-28

全日本バレーボール高校選手権大会(春高バレー)1回戦で、本県女子代表の郡山女子大付が金沢商(石川)を2-1で破り2回戦に進んだ。男子の郡山北工は近江(滋賀)に敗れた。



女子サッカー魂 未来へ 29

休校する富岡高の女子サッカー一部が元東京電力女子サッカー一部マリーゼ選手との交流試合に臨む。試合は広野町立グラウンドで14日午後1時キックオフ予定。

- 社説 定住・二地域居住 4
- お悔やみ 16
- 各地の放射線情報/PM2.5情報 26

きょう 天気 あすから

	6	12	18	24時	6日	7日	8日	9日	10日	11日
福島	10	50	20	5	10	10	70	70	30	30
二本松	10	30	10	5	10	10	70	70	30	30
郡山	10	20	10	3	10	10	70	70	30	30
須賀川	10	20	10	3	10	10	70	70	30	30
田村	10	20	10	3	10	10	70	70	30	30

発行所 福島市柳町4-29
郵便番号 960-8648
福島民友新聞社
電話代表(024)523-1191
編集局(024)523-1390
販売局(024)523-1472
振替口座 02180-8-5070
©福島民友新聞社 2017

2017年(平成29年)
1月5日(木曜日)
旧暦12月8日 先勝 二黒
しょうかん
小寒

福島民友

THE FUKUSHIMA MINYU



県も医師確保支援

高野病院 野 知事「国、福医大と連携」

東京電力福島第一原発事故後に避難せず診療を続けてきた高野病院(広野町)の高野英男院長(81)が昨年12月30日の火災で亡くなり



高野院長が亡くなり、常勤医が不在となった高野病院。広野町



支援の具体策について県

常勤医が不在となっている問題について、内堀雅雄知事は4日の年頭記者会見で「国と県、福島医大が連携し医療法人の意向を確認しながら医師確保に向けた支援を行う。今後、具体的に詰めて形をつくりたい」と述べ、支援の在り方を検討する考えを示した。

高野院長に対し内堀知事は「地域医療のとりどころとして役目を果たしていただいた」と悼んだ。病院の存続については「双葉地域の医療を守りたいという思いは同じ。関係者が力を合わせ一定の方向性を見いだした

は、高野病院を運営する医療法人社団養高会に今後の運営方針を確認した上で検討する。同病院は原発事故後、双葉郡で唯一入院患者を受け入れており、県は早急に対応していきたい(地域医療課)としている。県が民間病院を個別に支援するのは異例。

同病院の短期的な医師確保を巡っては、支援する会が応援の医師を募っており、町が医師の交通費と宿泊費を負担する方針を示している。会長の遠藤智広野町長は「県と緊密に連携しながら取り組む」と述べた。

同会によると、全国から延べ20〜30人の医師が協力する意向で1月中は診療を続けられる見通し。しかし病院存続、

復興願う「はしご乗り」



南相馬・相馬を披露し、馬市小高区

東京電力福島第一原発事故による避難指示が昨年7月に解除された南相馬市小高区が

風力産業で本気度示す



「福島の本気度を国内外に示す」と語る会川社長。右は風力発電の風車部分を支えるタワー部品

あいかわ・ふみお いわき市出身。日大生産工学部卒。東京の貿易関係の商社を経て、常磐炭鉱の閉山を機に26歳で家業の会川鉄工に入社。2004年から現職。廃炉作業の現場などで力を発揮できる二足歩行ロボットの製品化を目指す「いわきロボット研究会」会長。69歳。

いわき四倉中核工業団地に今年6月、国内初となる風力発電の風車部分を支えるタワー専用工場を新設する会川鉄工(いわき市)の会川文雄社長は「風力発電が浜通り、日本の原発に代わる産業として成り立つよう先頭を切りたい」と意欲を語る。本県企業として風力発電分野をリードしていく姿勢だ。

「福島の本気度を国内外に示す」と語る会川社長。右は風力発電の風車部分を支えるタワー部品

会川文雄氏 会川鉄工社長

「福島の本気度を国内外に示す」と語る会川社長。右は風力発電の風車部分を支えるタワー部品

産業を担う決意を語る。福島第一原発事故後、風力発電などの再生エネ関連産業やロボット関連産業などに力を入れてきた。風力発電関連製品に関しては、高さ約40mの中型風力タワーや約20mの小型風力タワーなどを製造、国内外に納品してきた。新工場では、高さ約100mの大型風力タワーなどを製造できるようになり、洋上風力発電など国内外からの受注を目指す。会川社長は「今まで福島県企業は風力産業に参画できなかった。いわれなかった。しかし、新工場では風力産業に懸ける『福島の本気度』を国内外に示したい。実証を繰り返しながら6月の本格稼働を目指す」と述べ、再生エネやロボット関連など本県復興をけん引する新産業に活路を見いだす。

「考え」

野 陸

震災後、に医師が、れまでも、ったが、も対応

福医大が日勤対応 2公

福島医大は「入院患者や近隣住民のための医療体制維持に支障がないよう、県の放射線災害医療学講座は